

設立事業年度事業報告

本報告は、定款第 39 条に基づき監事の監査を受け平成 24 年 4 月 28 日の臨時理事会にて承認を得たものである。

公益社団法人日本栄養・食糧学会 (平成 23 年 9 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日) 事業報告

< 概要 >

平成 23 年 9 月 1 日に移行登記として、社団法人の解散登記、公益社団法人としての設立登記が予定通り行われ、新たな公益社団法人日本栄養・食糧学会が発足した。臨時理事会が 9 月 19 日に開催され、臨時社員総会の招集 (10 月 10 日) の決議、社団法人最終事業年度 (4 月 1 日~8 月 31 日) の事業報告及び会計報告、並びに公益社団法人設立事業年度 (9 月 1 日~平成 24 年 3 月 31 日) の事業計画及び収支予算書を決議し、社員総会の承認を受け公益社団法人として実質的なスタートを切った。

法人名変更に伴う各種変更手続きをスケジュール通り行い、定款に則った情報公開も実施された。

社団法人から引き継いだ事業はそのまま公益目的事業となり、その展開において、栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業 (公 1 事業) として、仙台で開催予定の第 66 回年次大会を東北支部担当 (宮城県仙台市: 主会場・東北大学、会頭・駒井三千夫東北大学大学院教授) で準備が行われ、東日本大震災の影響による会場変更も余儀なくされたが、復興東北をスローガンに予定通り 5 月 18 日から開催されることとなった。支部事業においては本事業年度期間中、全支部において、相応しいテーマのもとに支部大会およびシンポジウム等を開催した。国際的活動については、本学会が主催する第 12 回アジア栄養学会議 (12thACN、平成 27 年に横浜市での開催を予定) に関して、PCO の選定と契約を行う等、組織委員会の分科会を中心に準備が進められている。

栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及事業 (公 2 事業) においては、引き続き日本栄養・食糧学会誌を効率的な編集方針のもとに定期的に刊行 (Vol164-5 号~Vol165-1 号) し、欧文誌 JNSV 誌刊行においても定期的な出版 (2 号~4 号) した。

日本栄養・食糧学会あり方検討ワーキンググループの会合も 3 回行われ、利益相反に関する体制の確立、編集事務局体制の見直しテーマとして討論され、それぞれ理事会に案件として提出され、学会運営上の大きな成果が上がったと言える。

I 会員の動き

1) 会員の状況 (平成 24 年 3 月 31 日現在)

名誉会員	35 名
終身会員	128 名
正会員	3291 名
学生会員	822 名
団体会員	216 団体
賛助会員	59 団体 (71 口)

2) 設立事業年度 (平成 23 年 9 月 1 日~平成 24 年 3 月 31 日) 物故会員 (敬称略)

名誉会員	: 若生 宏
終身会員	: 桐山 修八、小林 宏、大塚 一止、宮辺 豊紀
正会員	: 鈴木 正成、完岡 市光、今木 雅英、平野 修助、江指 隆年

3) 支部別会員

会員種別 支部名	名誉会員	終身会員	正会員	学生会員	団体会員	賛助会員 [口数]
北海道支部	0 (± 0)	3 (± 0)	114 (+ 2)	40 (+ 5)	11 (± 0)	1[1] (± 0)
東北支部	0 (± 0)	6 (± 0)	182 (- 1)	36 (+11)	13 (± 0)	0[0] (± 0)
関東支部	20 (± 0)	50 (- 1)	1269 (+29)	272 (+25)	93 (± 0)	45[57] (+ 2)
中部支部	4 (- 1)	12 (- 1)	392 (+13)	100 (+ 4)	25 (± 0)	3[3] (+ 1)
近畿支部	5 (± 0)	39 (± 0)	665 (± 0)	192 (+ 5)	33 (± 0)	8[8] (± 0)
中国・四国支部	1 (± 0)	10 (- 1)	326 (+ 9)	112 (+11)	26 (± 0)	2[2] (± 0)
九州・沖縄支部	4 (± 0)	8 (- 1)	335 (+11)	70 (+10)	15 (± 0)	0[0] (± 0)
海外	1 (± 0)	0 (± 0)	8 (- 3)	0 (± 0)	0 (± 0)	0[0] (± 0)
合計	35 (- 1)	128 (- 4)	3291 (+60)	822 (+71)	216 (± 0)	59[71] (+ 3)

() 内は平成 23 年 8 月 31 日会員に対する増減を示す。(平成 24 年 3 月 31 日現在)

II 各種事業活動の推進報告

< 栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化（公1事業） >

1) 大会事業準備

(1) 第66回日本栄養・食糧学会大会の開催（会頭 駒井三千夫 東北大学大学院教授）

平成24年5月18日（金）～20日（日）宮城県仙台市

- *招待講演（予定） 1題
- *特別講演（予定） 4題
- *教育講演（予定） 4題
- *国際シンポジウム（予定） 3題
- *シンポジウム（予定） 11テーマ
- *サテライトシンポジウム（予定） 1テーマ
- *市民公開講座（予定） 1テーマ
- 一般講演 588題

(2) 第67回日本栄養・食糧学会大会開催準備

平成25年5月24日（金）～26日（日）愛知県名古屋市

中部支部（準備責任者 下村吉治 名古屋大学大学院教授）が開催担当支部として準備を行う

(3) 第68回日本栄養・食糧学会大会開催準備

平成26年度の本大会の開催担当支部及び開催地が北海道支部で札幌を中心として実施予定（第2回理事会1/21決議）
大会準備責任者として、原 博 北海道大学大学院教授が選任された（第3回理事会3/20決議）

(4) 支部事業

①北海道支部

*第41回日本栄養・食糧学会北海道支部大会

平成23年10月23日（日）天使大学 6号館 6101教室

シンポジウム「食事と血圧調節」

「水産物由来ペプチドの血圧上昇抑制作用」

細川 雅史（北海道大学大学院）

「バイオチン摂取による血圧上昇抑制効果」

駒井 三千夫（東北大学大学院）

「GABA高含有きのこの開発と血圧上昇抑制作用」

原田 陽（北海道総合研究所）

「高血圧症 食事療法の実践」

安江 千歳（柏葉脳神経外科病院）

参加者数 44名（内 非会員 15名）

一般講演 8題

②東北支部

*第45回日本栄養・食糧学会東北支部大会

平成23年10月29日（土）岩手大学農学部（総合教育研究棟・生命系）

公開シンポジウム「食育の現状と今後のあり方」

「岩手県食育推進計画～いきいき健やか岩手の食っ子！ イーハートープの恵を受けて」

白岩 利恵子（岩手県環境生活部）

「農林水産省が実施している食育の取り組み」

畑山 貴弘（農林水産省）

「地域農業を通じた食教育」

高村 英世（雑穀マイスター：岩手県）

高村 民子（食の匠：岩手県）

「お茶の水女子大学 Shokuiku プロジェクトでの取り組みについて」

河野 一世（お茶の水女子大学）

参加者数 100名（内 非会員 35名）

一般講演 12題

③関東支部

*第88回日本栄養・食糧学会関東支部大会

平成23年9月17日（土）日本大学生物資源科学部

日本食品科学工学会関東支部会と合同シンポジウム

シンポジウム「食と栄養を繋ぐ研究の新展開と最近の話題」

「食品の安全を守る仕組み～微生物、農薬、食品添加物と放射性物質～」 大谷 敏郎（（独）農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所）

「体内時計による代謝制御とその乱れによるメタボリックシンドローム」 榛葉 繁紀（日本大学）

「食品と糖尿病合併症の予防・改善に関する最近の話題」 永井 竜児（日本女子大学）

「体脂肪計、社員食堂のデータから考える体組成管理」 深山 知子（（株）タニタ）

参加者数 116名（内 非会員 57名）

*第14回脂質栄養シンポジウム

平成24年1月28日（土）東京農業大学 世田谷キャンパス 新1号館 141教室

シンポジウム「健康寿命のサイエンス—高齢者の栄養を中心に—」

「疫学研究からみた日本人高齢者の栄養と余命および死因別死亡」 新開 省二（東京都健康長寿センター）

「高齢者の栄養の多様性と疾病予防対策」 大荷 満生（杏林大学）

- 「TAKE10!による介護予防～運動と食生活の画面から～」
 参加者数 58名(内 非会員 44名)
 *第89回日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム
 平成24年3月10日(土)(独)国立健康・栄養研究所
 シンポジウム「骨・ミネラル研究の話題」
 「骨恒常性における局所カルシウム輸送の意義」 増山 律子(長崎大学大学院)
 「日本人の食生活におけるヨウ素、セレン、クロム、モリブデン」 吉田 宗弘(関西大学)
 「日本人のリン・カルシウム摂取と骨の健康」 伊藤 早苗(女子栄養大学)
 「コラーゲンペプチド由来オリゴペプチドによるマウスの骨・関節への作用」 真野 博(城西大学)
- 参加者数 90名(内 非会員 56名)
 一般講演 4題
- ④中部支部
 *第62回日本栄養・食糧学会中部支部大会
 平成23年10月29日(土) 岐阜大学 応用生物科学部
 学会賞受賞講演
 「分岐鎖アミノ酸代謝の調節機構に関する研究」 下村 吉治(名古屋大学大学院)
 公開シンポジウム「生活習慣病を予防し、健康寿命を延ばす運動戦略」
 「生活習慣病に対する運動の予防医学的効果」 森谷 敏夫(京都大学大学院)
 「運動は若者の特権ではない。高齢者こそ運動を！」 藤田 聡(立命館大学)
 「手軽な運動で健康維持—自転車健康法のすすめ」 高石 鉄雄(名古屋市立大学大学院)
- 参加者数 68名(内 非会員 35名)
- ⑤近畿支部
 *第50回日本栄養・食糧学会近畿支部大会
 平成23年10月15日(土) 近畿大学 農学部キャンパス
 近畿支部50周年記念講演会
 「支部50年の歩みと栄養食糧研究」 中野 長久(大阪女子短期大学)
 「特別講演」 清野 裕(関西電力病院)
 シンポジウム「生体機能情報としての栄養素」
 参加者数 294名(内 非会員 126名)
 一般講演 74題
- *第2回栄養学を志す若手のためのフォーラム
 平成24年3月3日(土) 大阪市立大学文化交流センター
 機能性食品の栄養学～基礎から応用～
 「骨代謝改善の栄養学」 河村 幸雄(近畿大学)
 「肥満・メタボリック症候群の基礎研究」 河田 照雄(京都大学)
 「肝疾患と機能性食品」 岩田 加壽子(三重大学)
 「病者向け食品、高齢者向け食品の研究開発」 米谷 俊(江崎グリコ(株))
 「災害時や開発途上国での活用」 木戸 康博(京都府立大学)
- 参加者数 148名(内 非会員 76名)
- ⑥中国・四国支部
 参加者数 41名(内 非会員 22名)
 *第44回 日本栄養・食糧学会中国・四国大会
 平成23年11月12日(土)～13日(日) 岡山県立大学
 特別講演「糖尿病治療の最前線」
 「糖尿病と栄養」 稲垣 暢也(京都大学)
 「日本人糖尿病の新しい治療・診断・予防戦略」 福島 光夫(岡山県立大学)
 「糖尿病のテーラーメイド治療のための職種間連携」 中山 法子(田附興風会医学研究所)
 「当院の糖尿病教育システム～チーム医療としての展開～」 野崎 あけみ(山口赤十字病院)
- 参加者数 97名(内 非会員 28名)
 一般講演 27題
- ⑦九州・沖縄支部
 *第65回 日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会
 平成23年9月3日(土)～4日(日) ホテル「グランデはがくれ」、佐賀大学農学部
 公開シンポジウム「健康長寿のための食糧科学と医学」
 「機能性食品によるメタボ予防と改善」 柳田 晃良(佐賀大学)
 「油脂の嗜好性と低エネルギー化の試み」 伏木 亨(京都大学)
 「過酸化脂質研究からみた抗酸化食品開発の意義」 宮澤 陽夫(東北大学)
 「骨と関節の健康」 佛淵 孝夫(佐賀大学)
 「糖尿病の食事療法の新たな展開」 石田 均(杏林大学)
- 参加者数 112名(内 非会員 43名)
 一般講演 38題

*公開講演会

平成 23 年 12 月 17 日(土) メルカつきまち プラザホール

市民公開講演会「食品の安全・安心と食べ方・選び方」

「消費者は食品の放射線汚染とどのように付き合えばよいか」

「楽しくおいしく！子どもに安心して食べさせる食品の選び方」

甲斐 倫明 (大分看護科学大学)

太田 百合子 (子どもの城小児保健
クリニック)

「科学的根拠に基づいた健康の保持増進のための食品選択」

奥 恒行 (長崎県立大学)

参加者数 45 名 (内 非会員 20 名)

一般講演 3 題

2) 表彰事業および助成・助成推薦事業

本事業は、各種授賞等選考委員会並びに学会活動強化委員会を通じ展開された。

- (1) 第 2 回各種授賞等選考委員会 (12/10) が開催され功労賞 2 件、学会賞 2 件、奨励賞 3 件、学術基金 研究助成対象者 2 件を推薦し理事会に上申した。他に委員会活動として、他学会への学会長名での推薦をメール審査にて 3 件行った。
- (2) 学会活動強化委員会活動としては、
 - ①学術企画の支援として学会活動強化費申請 (2 件) のメール審査を行い、修正等で再提出を求めたうえで承認した。
 - ②栄養・食糧学術基金助成の予備審査を行い、各種授賞等選考委員会へ報告を行った。
 - ③研究・開発事業の 3 テーマの期間延長申請をメール審査にて行い理事会に上申を行った。
- (3) 学術基金 国際交流助成の応募を学会誌 (Vol164-6 号) に掲載するも応募 0 件であった。
- (4) 表彰事業の協賛のため 6 企業・団体へ依頼し応諾された。
- (5) 下記外部団体からの研究褒賞候補者推薦依頼・研究助成募集の周知を図る

①研究褒賞候補者推薦依頼

慶應義塾医学振興基金/慶應医学賞	(財) 材料科学技術振興財団/山崎貞一賞
(財) 食の新潟国際賞財団/食の新潟賞	第一生命保険株式会社/保健文化賞
(財) 富山県ひとづくり財団/とよま賞	(財) 日中医学協会
(独) 日本学術振興会/育志賞	(独) 日本学術振興会/日本学術振興会賞
(公財) 日立環境財団/環境賞	(公財) 三島海雲記念財団

②研究助成募集の周知

(財) 旗影会	(財) ソルト・サイエンス研究財団
(公財) タカノ農芸化学研究助成財団	(公財) ダノン健康・栄養財団
(社) 中央味噌研究所	(財) 日本心臓財団
(財) 不二たん白質研究振興財団	

(6) 外部団体への推薦

- ①公益財団法人三島海雲記念財団へ
各種授賞等選考委員によるメール審査の結果、1 件を学会として推薦し書類を送付
三島海雲学術賞受賞となる
- ②飯島記念食品科学振興財団へ 1 件学会として推薦
- ③公益財団法人 森永奉仕会研究奨励金応募へ
各種受賞等選考委員会にて審査の結果、1 件を学会として推薦し書類を送付

3) 栄養・食糧科学に関する研究・調査事業

本事業は、下記 3 テーマとも非常置委員会としてそれぞれの委員会で展開された。

これらのテーマは H23 年度で期限切れとなる。いずれも期限延長の申請を行い、学会活動強化委員会の審査を経て、平成 24 年 3 月 20 日開催の理事会で、2 年間の期限延長と事業計画・予算が承認された。

以下各テーマについて主な進捗を報告する。

- (1) 栄養成分表示・栄養教育の検討
 - ①コンシューマーサイエンス分野に関する検討を開始
- (2) 食品アミノ酸データベースの検討
 - ①新たな 97 食品についてデータを追加
- (3) 栄養・食糧学用語に関する検討
 - ①用語辞典の見直しを進め、新語の検討を実施し、新版発行に向け準備

4) 国際交流事業

本事業は、国際交流委員会及び 12thACN 組織委員会を通じ展開された。

- (1) 第 66 回大会海外シンポジスト・招待者対応
 - ①招待者講演として、中国栄養学会から副会長を招聘
 - ②国際シンポジウム企画と海外シンポジスト 2 名を招聘
- (2) 第 12 回アジア栄養学会議関係
 - ①平成 23 年度の第 1 回実行委員会 (9/19 開催) で PCO 応募 4 社から (株) ICS コンベンションデザインに決定し、スケジュール、経費見積を再確認し契約書を締結 (平成 24 年 3 月 31 日付)
 - ②12thACN 開催にあたりシンポジウム企画など連携可能と思われる関連学会へ打診を開始

(3)その他

①IUNS から日本学術会議 IUNS 分科会に 2021 年国際栄養学会議開催の打診があり、本会として立候補支持の方向で検討を開始

5) 倫理審査事業

本事業は、倫理審査委員会を通じ展開されている。

(1) 本年度は審査依頼件数 0 件

(2) 厚生労働省より臨床研究倫理審査委員会報告システムの URL を公開するとの通知を受け当会の情報を点検し、「倫理審査手順」を追加

< 栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及 (公 2 事業) >

1) 出版事業の推進

本事業に関しては、日本栄養・食糧学会誌編集委員会が担当するとともに、JNSV 刊行においては、日本ビタミン学会との共同編集として発刊した。

これらの学術誌の発刊に対しては、(財)学会誌刊行センターに委託している。

(1) 日本栄養・食糧学会誌 64 巻 5 号～65 巻 1 号

①投稿状況

投稿数 (うち採択数)

受付日	全論文	総説	報文	研究ノート	資料	速報
2010 年 6 月	3(2)		2(1)	1(1)		
2010 年 7 月	2(1)		2(1)			
2010 年 8 月	4(3)		2(1)	2(2)		
2010 年 9 月	2(1)		2(1)			
2010 年 10 月	2(0)				1(0)	1(0)
2010 年 11 月	1(0)			1(0)		
2010 年 12 月	4(4)	2(2)	1(1)	1(1)		
2011 年 1 月	3(2)	2(2)		1(0)		
2011 年 2 月	3(2)	1(1)	1(0)		1(1)	
2011 年 3 月	3(2)		2(2)	1(0)		
2011 年 4 月	6(4)		5(3)	1(1)		
2011 年 5 月	4(2)	1(1)	2(1)	1(0)		
2011 年 6 月	5(2)	1(1)	3(1)	1(0)		
2011 年 7 月	7(4)	2(2)	2(2)	2(0)	1(0)	
2011 年 8 月	3(3)	3(3)				
2011 年 9 月	3(0)		3(0)			
2011 年 10 月	1(1)	1(1)				
2011 年 11 月	2(0)		3(0)			
2011 年 12 月	0					
2012 年 1 月	3(1)		2(1)	1		
2012 年 2 月	1(0)		1(0)			
2012 年 3 月	3		2		1	

平均所要日数 掲載可: 80 日 (2010 年 6 月～2011 年 3 月: 95 日、2011 年 4 月～2012 年 3 月: 62 日)

掲載否: 45 日 (2010 年 6 月～2011 年 3 月: 52 日、2011 年 4 月～2012 年 3 月: 40 日)

*2011 年度 (4 月～8 月) 投稿論文 25 編

採択率 70 % (取り下げ除く)

掲載可 16 編

掲載否 7 編

取り下げ 2 編

審査中 0 編

*2011 年度 (9 月～3 月) 投稿論文 13 編

掲載可 2 編

掲載否 7 編

取り下げ 0 編

審査中 4 編

②発行状況

巻号	総説	報文	ノート	資料	動向	速報	講座	書評	寄稿	計
64-5	2	2	1	1	0	0	0	2	2	10
64-6	2	2	0	0	0	0	0	1		5
65-1	1	1	0	1	0	0	0	1		4
総計	5	5	1	2	0	0	0	4	2	19

③刊行状況

巻号	納本日	予定日
----	-----	-----

64-5	10月11日	10月11日
64-6	12月12日	12月10日
65-1	2月10日	2月10日

④日本栄養・食糧学会誌編集委員会の開催 (9/4)

第63回大会で行われた特別講演等の一部を寄稿または総説として学会誌に掲載中(65-2に1報掲載予定で終了) 郵送での投稿は9月までで終了し、すべてオンライン投稿となる。

平成23年10月1日にJ-STAGE3 (ScholarOne Manuscripts タイプ: 杏林社) ヘシステムの移行がなされ、J-STAGE2 での審査はすべて終了し、今後はすべてJ-Stage3での審査となる。

掲載可否判定前の最終チェック方法をJ-STAGE3画面のオンラインでできるよう変更する予定である。

平成24年5月の編集委員のメンバー変更の際、編集事務局が池袋本部に移転する予定

⑤編集事務局の固定化

委員長交代ごとに編集事務局が移転していたが、編集事務業務の継続性等から学会事務局へその機能を移転し、学会事務局における管理体制の準備を行った。

(2) Journal of Nutritional Science and Vitaminology (JNSV)

①編集状況

日本ビタミン学会との共同編集 Vol. 57-No. 2~No. 6, Vol. 58-1の刊行

平成24年3月9日現在

理事会			分野別投稿数						分野別採択数						備考
資料提出日	Vol	年	Total	V	N	F	R	Note	Total	V	N	F	R	Note	
10月22日	57	2011	136	23	86	27	2	16	65	8	49	8	2	10	57-6まで
1月21日			167	28	104	35	2	24	65	8	49	8	2	10	57-6まで
3月20日	58	2012	23	4	14	5	1	3	22	2	16	4	0	6	58-2まで
Total は、V, N, Fの合計。															

(各号の内訳)							巻号
Total	V	N	F	R	Note		
9	2	6	1	0	0		57-5
9	1	7	1	1	3		57-6
11	2	6	3	0	4		58-1
11	0	10	1	0	2		58-2

J. Nutr. Sci. Vitaminol.		原稿状況 (2011年12月31日現在)												
Vol.	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
49	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		124
	投稿数	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	
	掲載数	13	11	11	15	10	14	15	10	10	15	16	10	75
50	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		107
	投稿数	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	
	掲載数	12	12	12	13	10	13	14	10	14	14	12	8	75
51	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		115
	投稿数	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	
	掲載数	9	12	14	14	13	15	15	12	14	12	16	8	78
52	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		133
	投稿数	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	
	掲載数	12	13	13	16	12	13	15	17	14	17	16	4	71
53	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		134
	投稿数	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	
	掲載数	16	14	14	11	16	14	14	14	11	12	16	8	88
54	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		154
	投稿数	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	
	掲載数	17	17	11	15	15	15	10	19	13	12	16	6	81
55	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		165
	投稿数	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	
	掲載数	13	15	16	10	16	21	13	21	13	16	7	10	78
56	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		165
	投稿数	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	
	掲載数	13	11	10	10	12	13	16	15	10	11	3	15	68
57	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		167
	投稿数	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	
	掲載数	18	12	9	14	16	19	18	14	9	10	15	9	65

*IUNS報告を除く

JNSV投稿内訳および結果

Vol.	Year	Total No.*	V		N		F		R		Note		年間掲載数	頁	審査中	可	否	(D, E, 取下)
			投稿数	掲載数	投稿数	掲載数	投稿数	掲載数	投稿数	掲載数	投稿数	掲載数						
46	2000	110	29	15	65	32	16	10					57	341				
47	2001	107	18	16	74	42	15	7					65	425				
48	2002	104	23	14	62	58	19	10					82	558				
49	2003	124	21	12	85	51	18	12					75	473				
50	2004	107	18	15	68	48	21	11					75	465				
51	2005	115	26	14	76	49	13	15	1	15	17		78	499				
52	2006	137	19	17	88	43	30	11	1	16	11		71	497				
53	2007	134	22	16	92	51	20	21	2	18	17		88	577				
54	2008	154	20	16	103	57	31	8	3	23	11		81	531				
55	2009	165	23	10	112	56	30	12	1	28	16		78	538				
56	2010	172	29	11	115	44	28	13	1	25	12		68	470				
57	2011	167	28	8	104	49	35	8	2	24	10		65	460	33	44		90

* V, N, Fの合計。

2011/12/31現在

	採 択 日 数					全採択数
	60日以内	90日以内	120日以内			
2001年 (採択数)		7.5%	35.8%			67
2002年 (採択数)	6.6%	25.4%	44.0%			75
2003年 (採択数)	3.4%	14.8%	37.5%			88
2004年 (採択数)	4.2%	11.3%	21.1%			71
2005年 (採択数)	5.8%	30.4%	17.4%			69
2006年 (採択数)	8.2%	32.9%	23.5%			85
2007年 (採択数)	15.4%	30.8%	28.2%			78
2008年 (採択数)	19.2%	30.8%	17.9%			78
2009年 (採択数)	29.9%	26.9%	13.4%			67
2010年 (採択数)	23.3%	19.2%	17.8%			73

[参考]

180日以上
38.8%
26
30.7%
23
31.8%
28
43.7%
31
34.8%
24
16.5%
14
10.3%
8
3.8%
3
9.0%
6
6.8%
5

論文採択率

	投稿数	可	採択率	否	取下	他誌へ	審査中
1997年	93	77	82.8%	5	10		1
1998年	106	78	73.6%	14	12		2
1999年	103	66	64.1%	21	11		5
2000年	110	69	62.7%	18	20		3
2001年	107	67	62.6%	17	20		3
2002年	104	75	72.1%	15	14		1
2003年	124	88	71.0%	23	11		2
2004年	107	71	66.4%	21	13		2
2005年	115	69	60.0%	28	15		3
2006年	137	85	62.0%	37	13		2
2007年	134	78	58.2%	38	10		8
2008年	154	78	50.6%	65	9		3
2009年	165	67	40.6%	87	6		5
2010年	172	73	42.4%	83	8		8

②投稿数は前年並みで、編集は順調に推移。審査の迅速化の効果などで、インパクトファクターが上昇基調にある。編集委員の交代（4名、うち1名は日本ビタミン学会推薦委員）

2) 広報事業

本事業は、広報委員会を通じ展開された。

(1) 報道機関向け広報

第66回大会開催にあたり、報道機関へ事前に主なテーマについての発表実施の準備（5/1 予定）

(2) 会員向け情報の告知

学会内の動き、関連学術団体、関連機関（大学・官庁等）からの情報、依頼記事（募集・告知等）について、広報推進を行った。

①ホームページ管理業務委託業者を通じ、定期的に及び緊急的に情報を掲載

公益社団法人への移行に伴い主な変更点、事業内容の解説を掲載し、周知を図った。

緊急的には、設立事業年度臨時総会開催（10/10）のお知らせを掲載した。

②会員向けメールマガジン栄食ニュースは1回/月のペースで発信

ホームページへの掲載の紹介及びタイムリーな記事掲載を行い、以下8号発信

2011- 9(通算 103号 9/8)、2011-10(104号 10/13)、2011-11(105号 11/10)、2011-12(106号 12/8)、

2011-12(臨時 12/15)、2012- 1(107号 1/12)、2012- 2(108号 2/16)、2012- 3(109号 3/15)

③国内学術団体からの事業関連の連絡・通知

* 日本学術会議

日本学術会議発行メールニュース（No. 312～No. 338）の周知の実施

* 日本医学会

シンポジウム等の開催周知協力の実施

III 管理業務報告

(1) 文部科学省からの通知・連絡対応

①メール通知・連絡

* 【照会】新大臣等に係る兼職状況調査について（9/7 受理、9/7 回答）

* 科学技術週間ポスターの送付について（2/23 受理）

* 【依頼】平成 24 年度（第 53 回）科学技術週間について（3/9 受理）

(2) 内閣府

1)内閣府より

- *メール通知「事業計画書等の提出」(4か月前)の案内(12/1受理)
- *メール通知「事業計画書等の提出」(1か月前)の案内(3/1受理)
- *メール通知「事業報告等の提出について」(3か月前)の案内(3/1受理)
- *メール通知「事業計画書等の提出完了」(整理番号1200156077)の案内(3/27受理)

2)内閣府へ

- *平成24年度事業計画書等をWeb上で提出(3/27)

(3) 日本学術会議

- ①日本学術会議発行メールニュース(No.312~No.338)の周知
- ②生活科学系コンソーシアムへの参加
- ③2012年Hervey賞候補者推薦依頼周知

(4) 日本医学会

- ①[ibunka・ml]の周知
- ②日本医学会に関するアンケートの回答
- ③日本医学雑誌編集者会議(平成23年10月5日)への出席
- ④日本医学会分科会利益相反会議(平成23年11月16日)への出席
- ⑤日本医学会・医学用語委員会(平成23年12月20日)への出席
- ⑥日本医学会定例評議員会(平成24年2月24日)への出席

(5) 関連団体との共催、協賛、後援の許可

- ・(公社)日本油化学会「第11回基準油脂分析試験法セミナー」の協賛
- ・(社)農林水産先端技術産業振興センター新品種産業化研究会「こめ油シンポジウム」の協賛
- ・日本糖質学会「第31回日本糖質学会年会共催・協賛・後援のお願い」の共催、協賛
- ・(公社)日本油化学会関東支部「平成24年度第2回油化学セミナー」の協賛
- ・食品ハイドロコロイド研究会「第23回食品ハイドロコロイドシンポジウム」の協賛
- ・食品ハイドロコロイド研究会「食品ハイドロコロイドセミナー2012」の協賛
- ・日本食品・機械研究会「第10回高付加価値食品開発のためのフォーラム」の協賛
- ・日本アミノ酸学会「日本アミノ酸学会第3回産官学連携シンポジウム」の協賛
- ・(公財)ダノン健康栄養財団「第14回ダノン健康・栄養フォーラム」の後援
- ・日本香辛料研究会「第27回日本香辛料研究会学術講演会」の協賛
- ・農水省「日本食文化の世界無形遺産登録への賛助団体加盟及び推進協議会への参加登録

IV 総会、理事会、等の開催状況

(1) 臨時総会

平成23年10月10日(月・祝) 16:00~17:00 キャンパス・イノベーションセンター

(2) 理事会

平成23年10月22日(土) 13:10~16:20 キャンパス・イノベーションセンター

平成24年1月21日(土) 13:10~16:00 東京大学弥生キャンパス

平成24年3月20日(火・祝) 13:10~16:30 お茶の水女子大学

(3) 臨時理事会

平成23年9月19日(月) 15:00~16:30 キャンパス・イノベーションセンター

(4) 業務執行理事打ち合わせ

平成23年10月22日(土) 10:30~12:00 キャンパス・イノベーションセンター

平成24年1月21日(土) 11:00~11:45 東京大学弥生キャンパス

平成24年3月20日(火・祝) 11:20~12:20 お茶の水女子大学

(5) 栄養・食糧懇談会

平成24年2月19日(日) 13:30~16:00 お茶の水女子大学

(6) 名誉会員・終身会員推薦委員会

平成24年1月21日(土) 11:45~12:15 東京大学弥生キャンパス

(7) 日本栄養・食糧学会あり方検討ワーキンググループ

平成23年10月22日(土) 9:30~10:30 キャンパス・イノベーションセンター

平成24年1月21日(土) 9:45~11:00 東京大学弥生キャンパス

平成24年3月20日(火・祝) 9:45~11:20 お茶の水女子大学